

証券化市場の動向調査

～2009年度の発行動向～

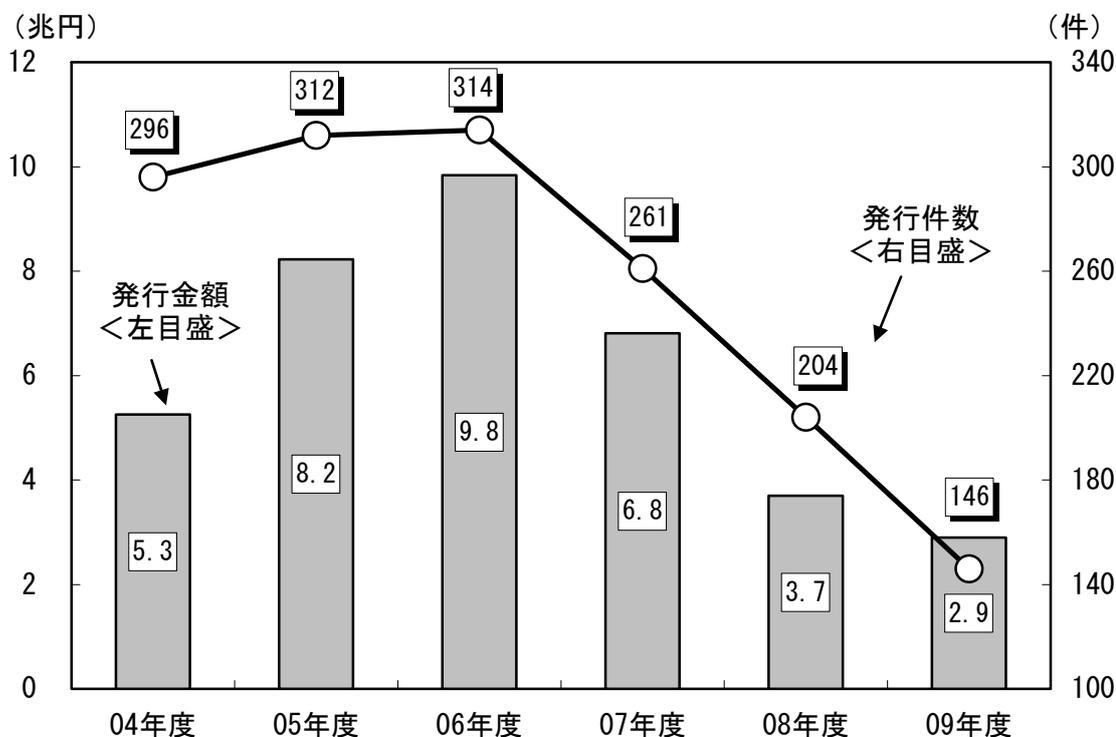
以下は、日本証券業協会及び全国銀行協会が毎月実施している「証券化市場の動向調査」（日本証券業協会ホームページ<<http://www.jsda.or.jp/>>参照）について、2009年度（2009年4月～2010年3月）の結果を取り纏めたものです。

図表データについては、別紙をご参照ください。また、参考として、『証券化市場の動向調査』における項目毎の記載割合を取り纏めています。

1. 証券化商品全体の発行動向

2009年度における証券化商品の発行動向をみると、金額、件数ともに、前年度を下回り、調査開始（2004年度）以来、最小となった（金額 2.9兆円<前年度比▲22%>、件数 146件<同▲28%>）（図表1）。

（図表1）証券化商品の発行金額・件数



（参考）普通社債の発行金額

（単位：兆円<2009年度分は暫定数値>）

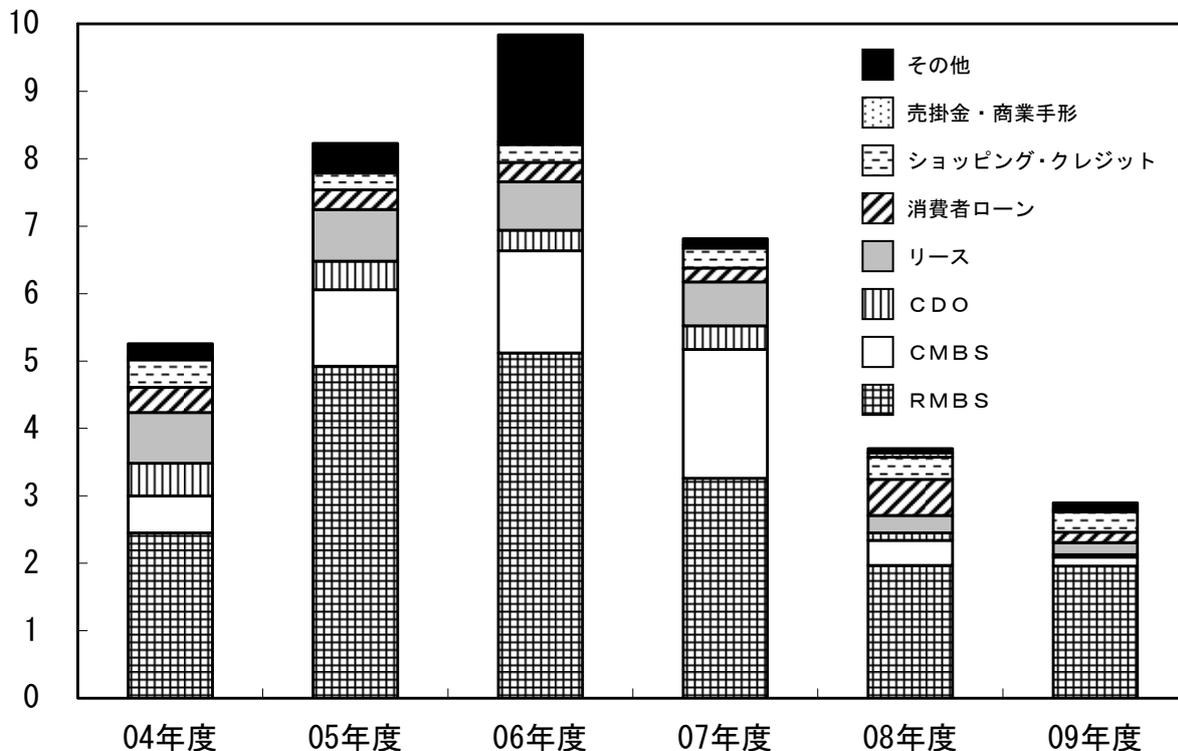
2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
5.9	6.9	6.8	9.4	9.6	10.3

2. 裏付資産別の発行動向

2009年度における証券化商品の発行金額（合計2.9兆円＜前年度比▲22%＞）を「裏付資産」別にみると、「RMBS」（2.0兆円＜同▲0%＞）は、住宅金融支援機構発行分の増加もあって、全体としては前年度並みの水準となったものの、「CMBS」（0.1兆円＜同▲65%＞）及び「リース」（0.2兆円＜同▲31%＞）が、引き続き減少したほか、「消費者ローン」（0.2兆円＜同▲72%＞）が、前年度の大型案件による大幅な増加の反動もあって減少し、「ショッピング・クレジット」（0.3兆円＜同▲7%＞）も前年度比減少に転じている。

以上の結果、発行金額（合計2.9兆円）の「裏付資産」別の構成比は、「RMBS」（2.0兆円＜構成比2009年度68%←2008年度53%＞）及び「ショッピング・クレジット」（0.3兆円＜同11%←9%＞）が増加し、「リース」（0.2兆円＜同6%←7%＞）、「消費者ローン」（0.2兆円＜同5%←15%＞）及び「CMBS」（0.1兆円＜同5%←10%＞）は減少した（図表2）。

（兆円） （図表2）証券化商品の「裏付資産」別発行金額



（参考）裏付資産の具体的な分類は、以下のとおり。

「RMBS (Residential Mortgage Backed Securities)」

：住宅ローン債権、アパートローン債権

「CMBS (Commercial Mortgage Backed Securities)」

：商業用不動産担保ローン債権、商業用不動産

「CDO (Collateralized Debt Obligations)」

：企業向け貸付債権、社債、CDS等

「リース」：リース料債権

「消費者ローン」：消費者ローン債権、カードローン債権

「ショッピング・クレジット」：ショッピング・クレジット債権、オートローン債権

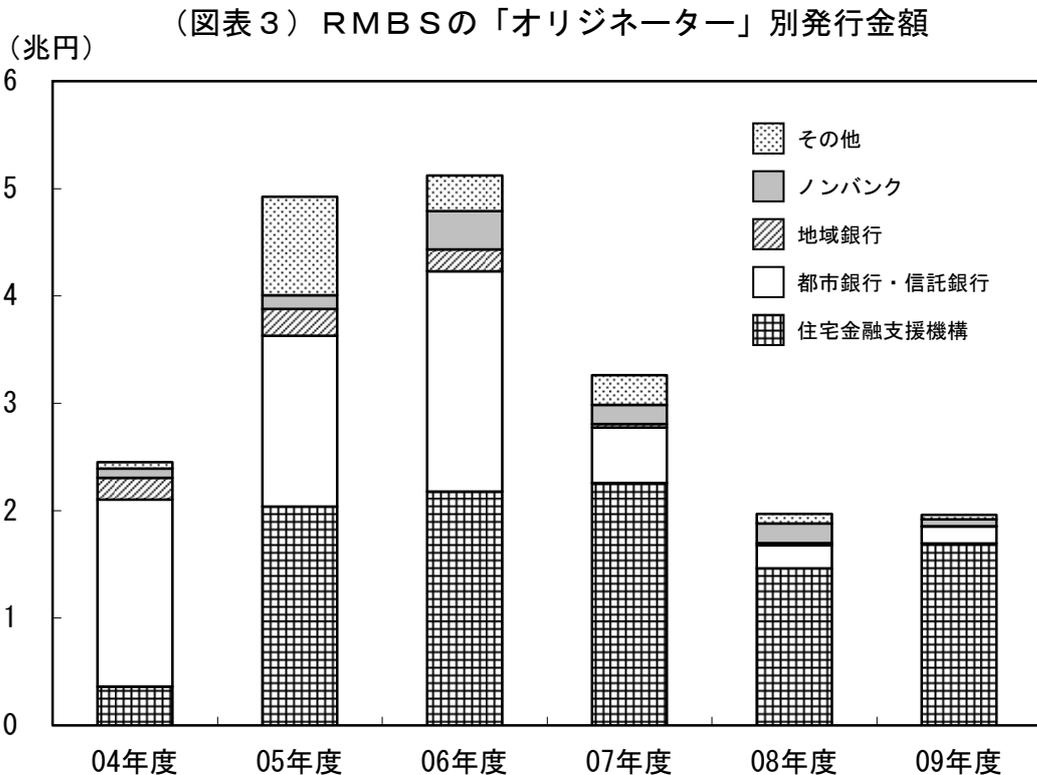
「売掛金・商業手形」：売掛債権、手形債権

「その他」：事業キャッシュフロー、診療報酬債権等

2. - (1) RMBSの発行動向

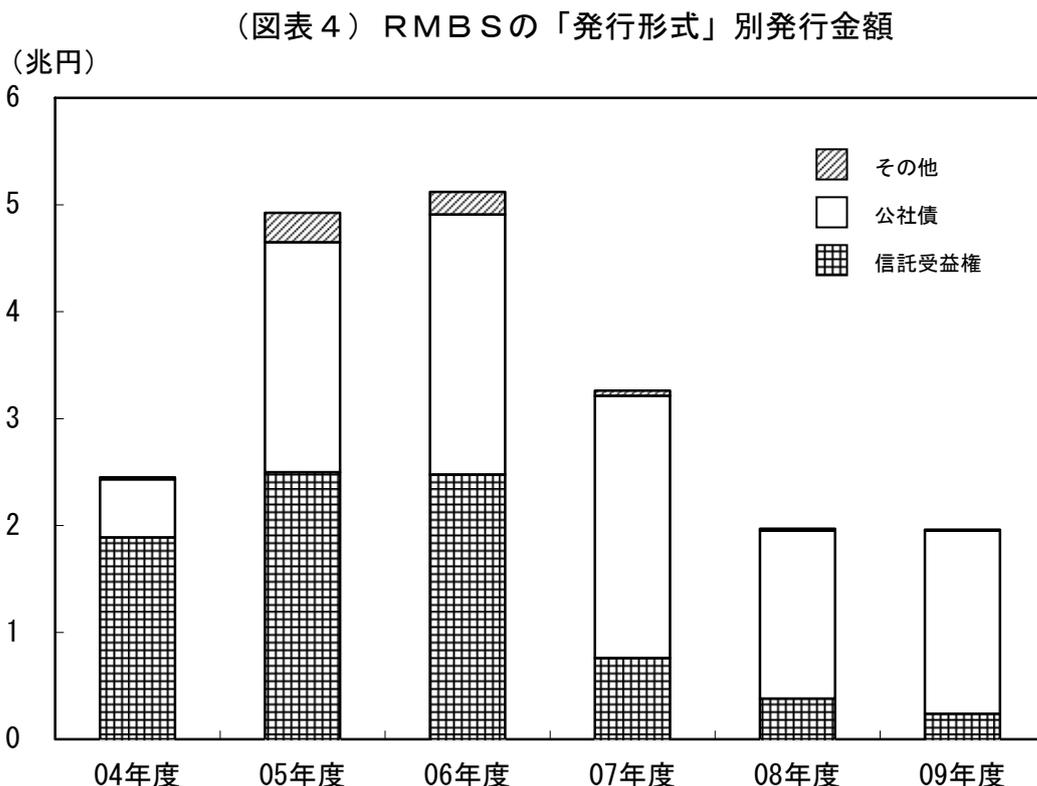
①オリジネーター別

RMBSの発行金額（1兆9,603億円）を「オリジネーター」別にみると、「住宅金融支援機構」が87%（1兆6,960億円）を占めた（図表3）。



②発行形式別

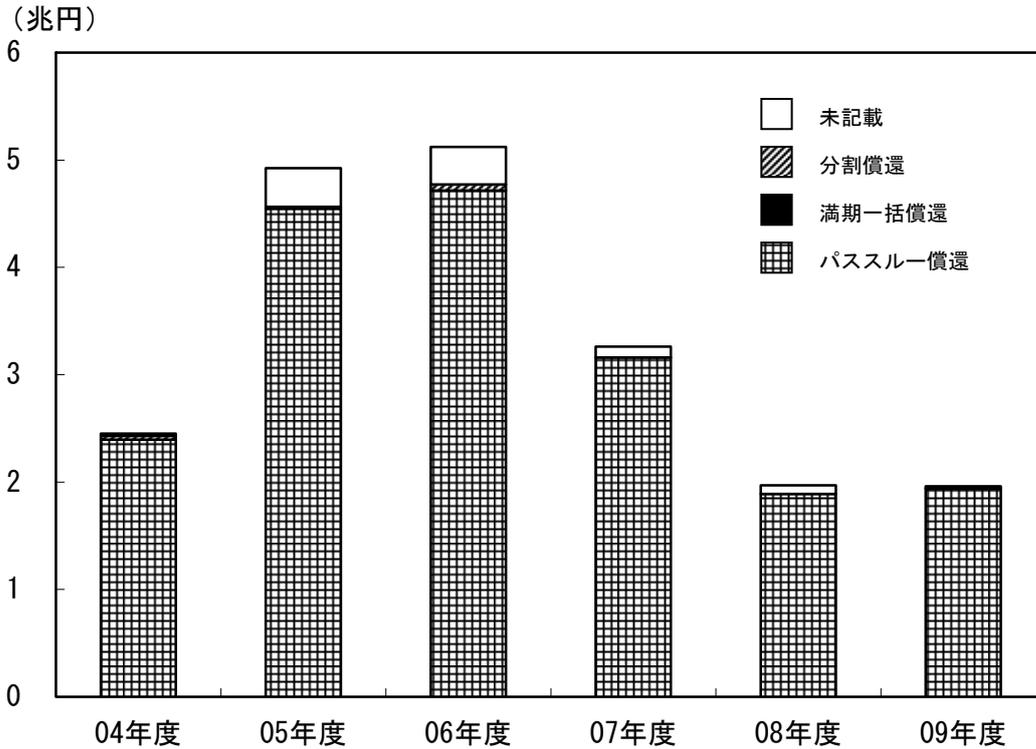
RMBSの発行金額（1兆9,603億円）を「発行形式」別にみると、「公社債」が87%（1兆7,100億円）を占めた（図表4）。



③償還方法別

RMB Sの発行金額（1兆9,603億円）を「償還方法」別にみると、「パススルー償還」が99%（1兆9,397億円）を占めた（図表5）。

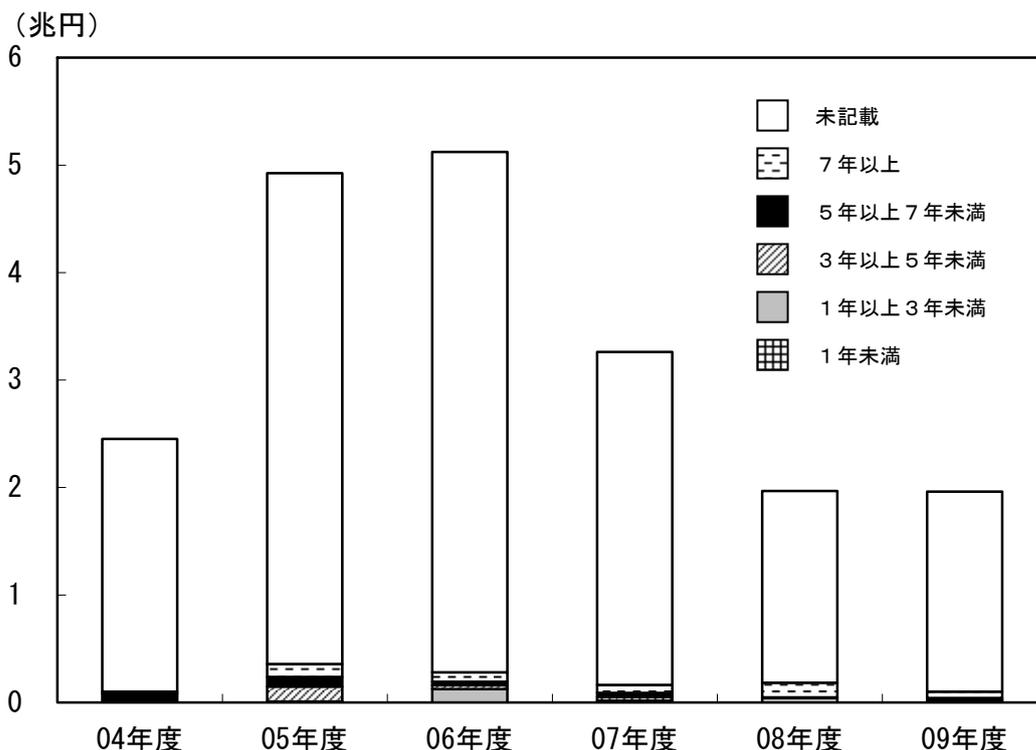
（図表5）RMB Sの「償還方法」別発行金額



④予定／平均年限別

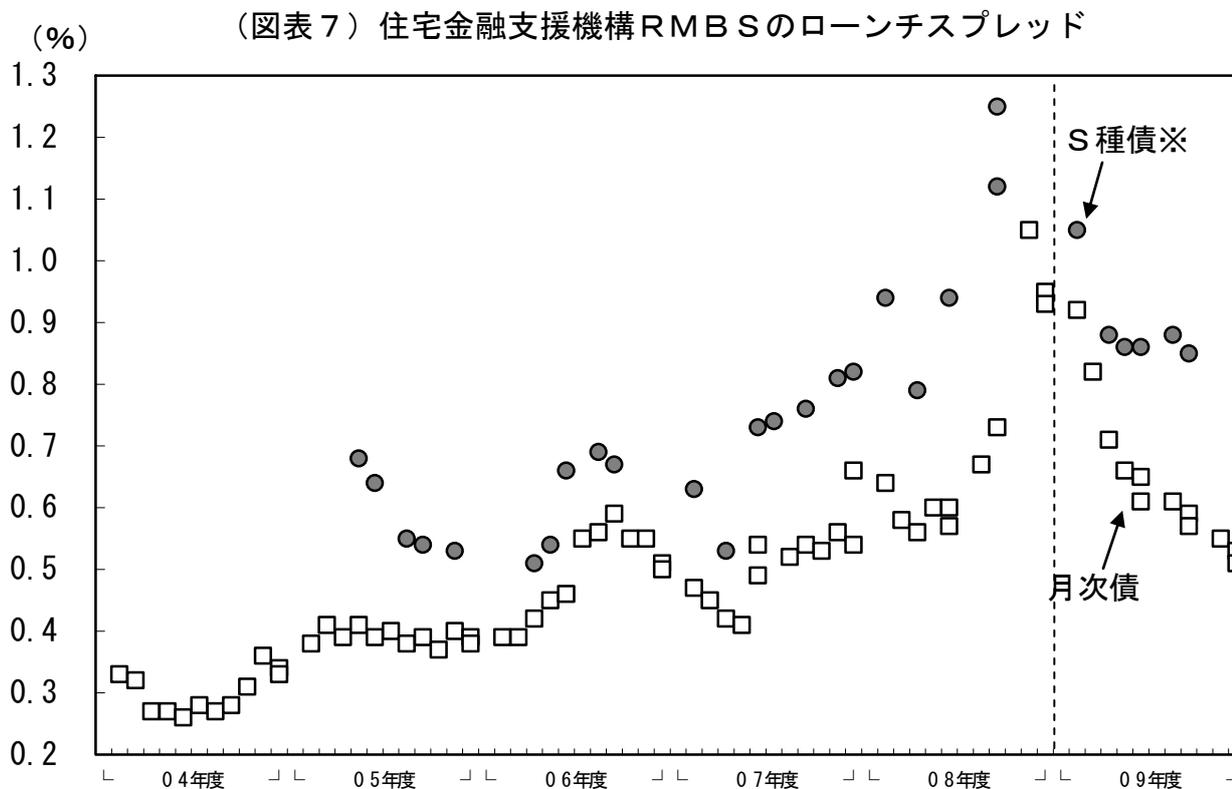
RMB Sの発行金額（1兆9,603億円）を「予定／平均年限」別にみると、「未記載」が95%（1兆8,606億円）を占めたが、記載のある中では、「7年以上」（589億円）が最も多くなった（図表6）。

（図表6）RMB Sの「予定／平均年限」別発行金額



⑤発行時のスプレッド

住宅金融支援機構RMBSのローンチスプレッド（表面利率と条件決定時の国債利回りとの差）をみると、2009年度においては、月次債、S種債ともに縮小傾向を辿った（図表7）。



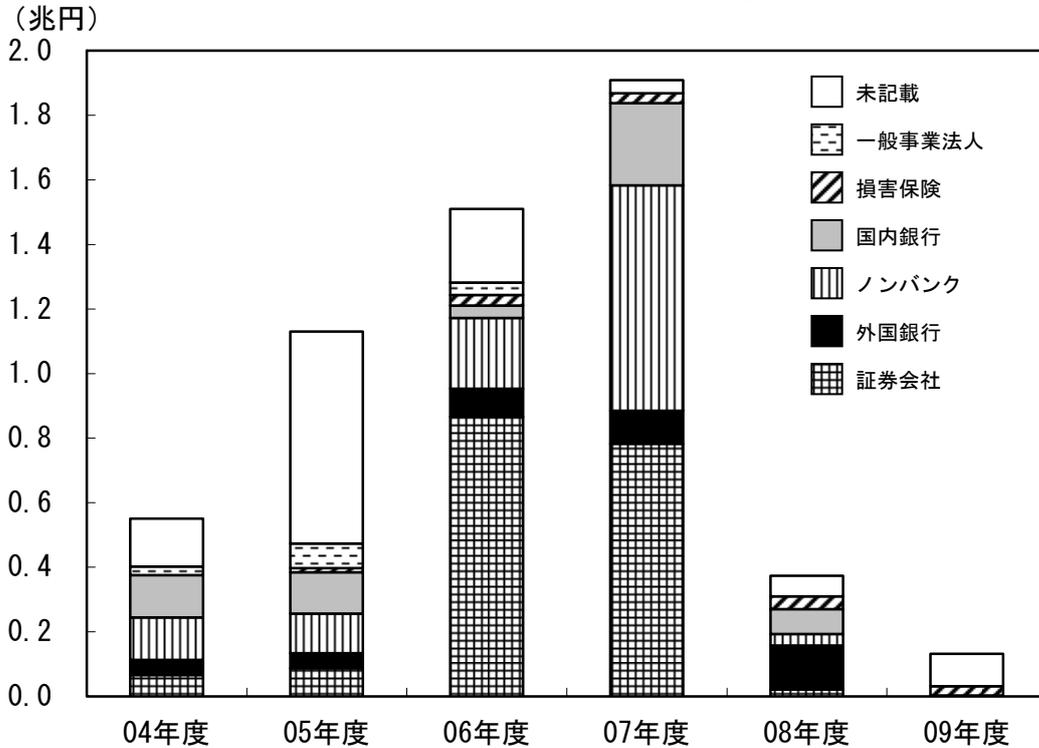
※旧住宅金融公庫が過去に直接実行した住宅ローンを証券化したもの。

2. - (2) CMBSの発行動向

①オリジネーター別

CMBSの発行金額(1,321億円)を「オリジネーター」別にみると、「未記載」が76%(1,000億円)を占めたが、記載のある中では、「損害保険」が296億円、「国内銀行」が25億円であった(図表8)。

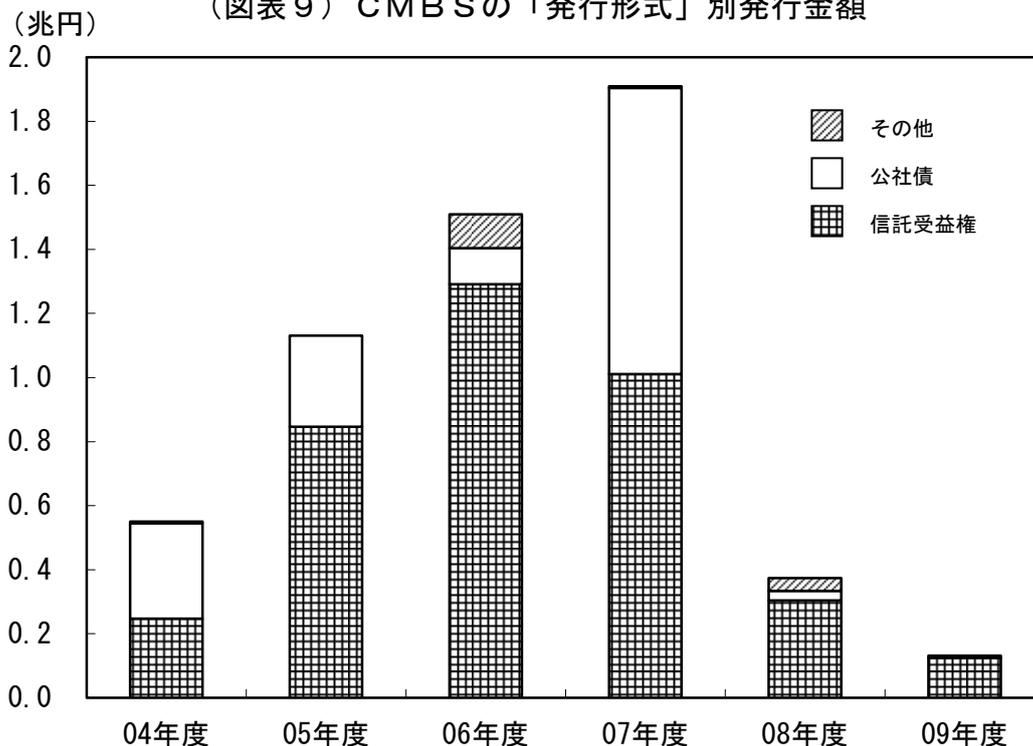
(図表8) CMBSの「オリジネーター」別発行金額



②発行形式別

CMBSの発行金額(1,321億円)を「発行形式」別にみると、「信託受益権」が94%(1,247億円)を占めた(図表9)。

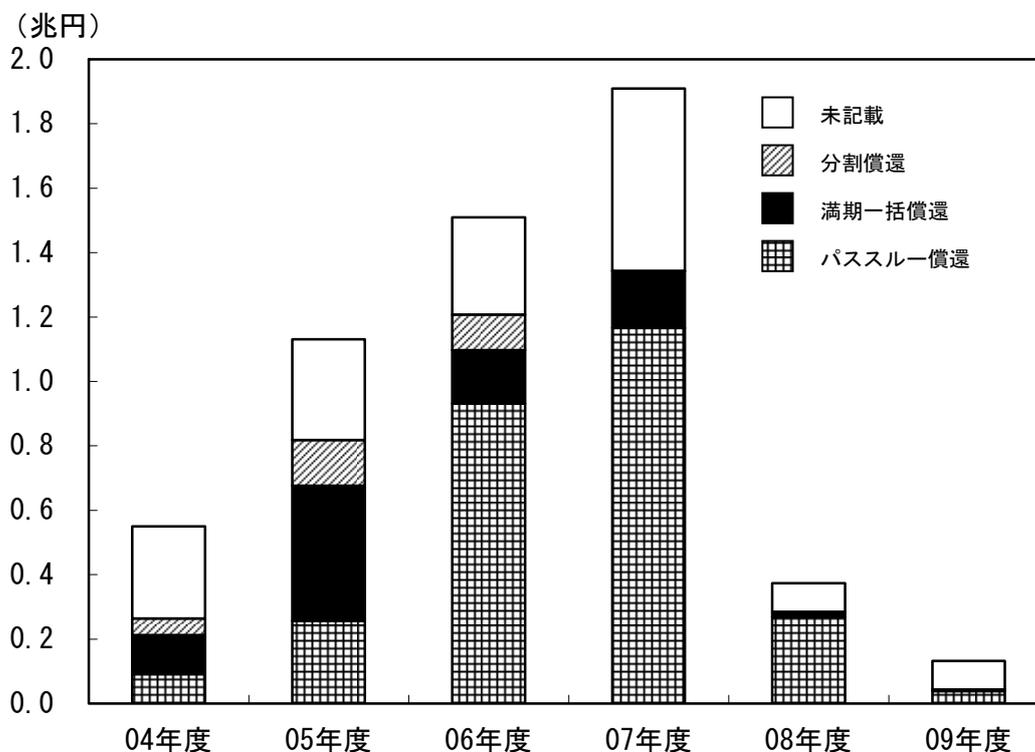
(図表9) CMBSの「発行形式」別発行金額



③償還方法別

CMBSの発行金額（1,321億円）を「償還方法」別にみると、「未記載」が67%（884億円）を占めたが、記載のある中では、「パススルー償還」が392億円、「満期一括償還」が45億円であった（図表10）。

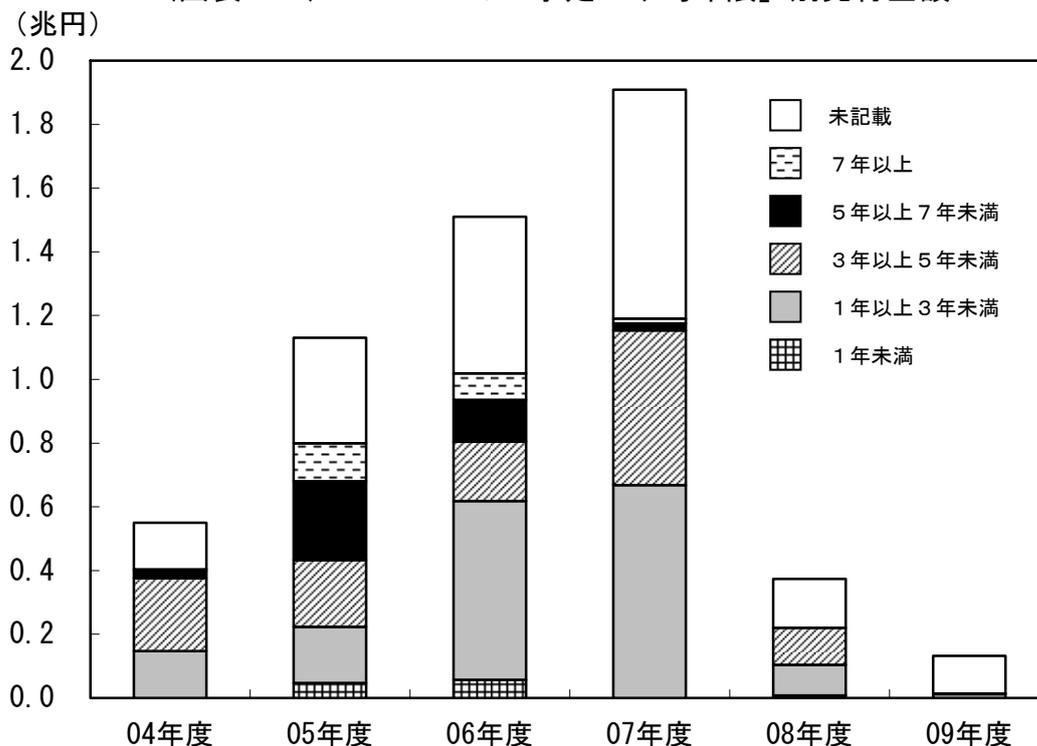
（図表10）CMBSの「償還方法」別発行金額



④予定／平均年限別

CMBSの発行金額（1,321億円）を「予定／平均年限」別にみると、「未記載」が89%（1,180億円）を占めたが、記載のある中では、「1年以上3年未満」が121億円、「3年以上5年未満」が20億円であった（図表11）。

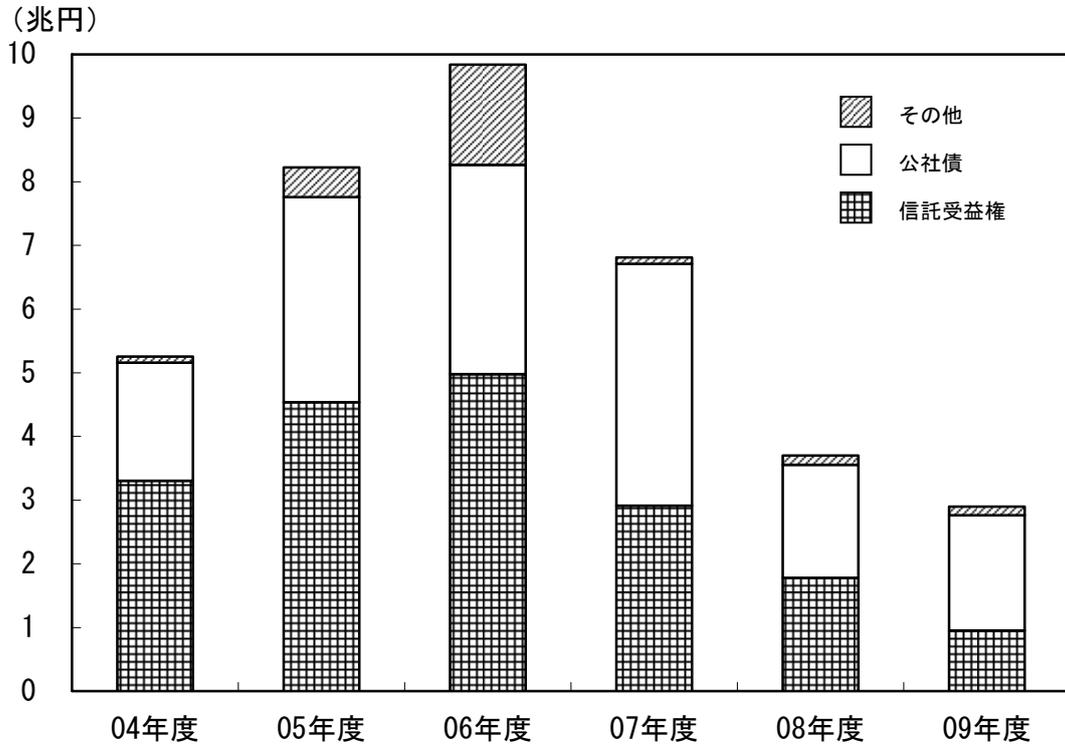
（図表11）CMBSの「予定／平均年限」別発行金額



3. 発行形式別の発行動向

2009年度における証券化商品の発行金額（2.9兆円）を「発行形式」別にみると、「公社債」が62%（1.8兆円）を占め、次いで「信託受益権」が33%（1.0兆円）を占めた（図表12）。

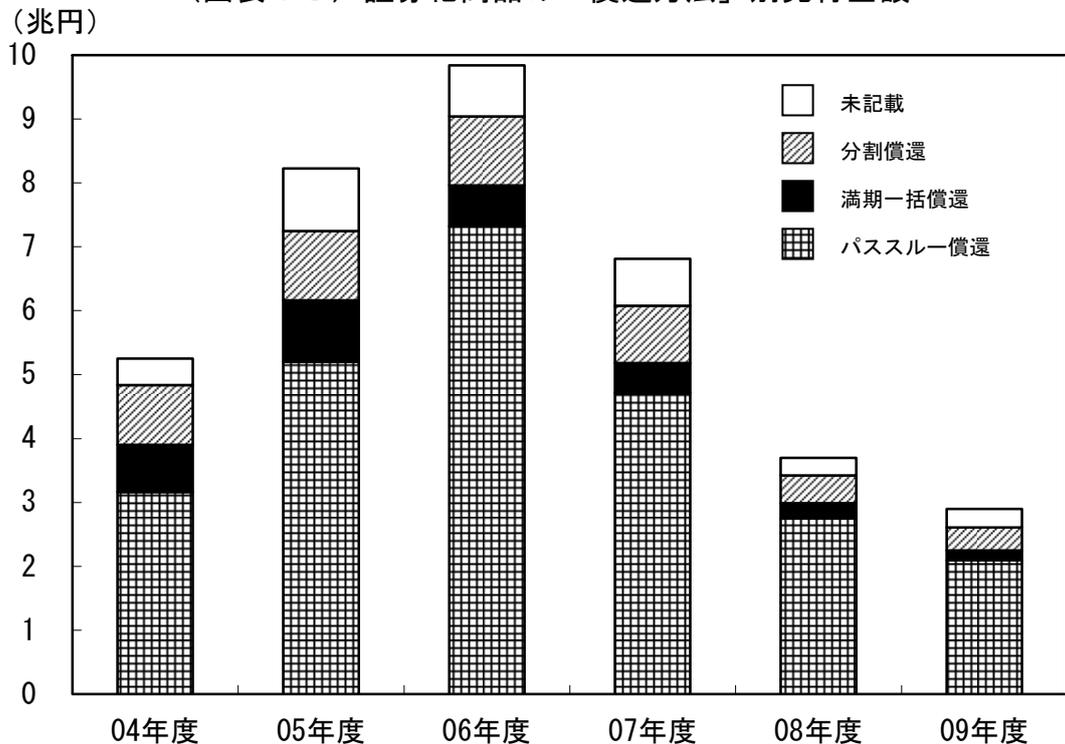
（図表12）証券化商品の「発行形式」別発行金額



4. 償還方法別の発行動向

2009年度における証券化商品の発行金額（2.9兆円）を「償還方法」別にみると、「パススルー償還」が72%（2.1兆円）を占めた（図表13）。

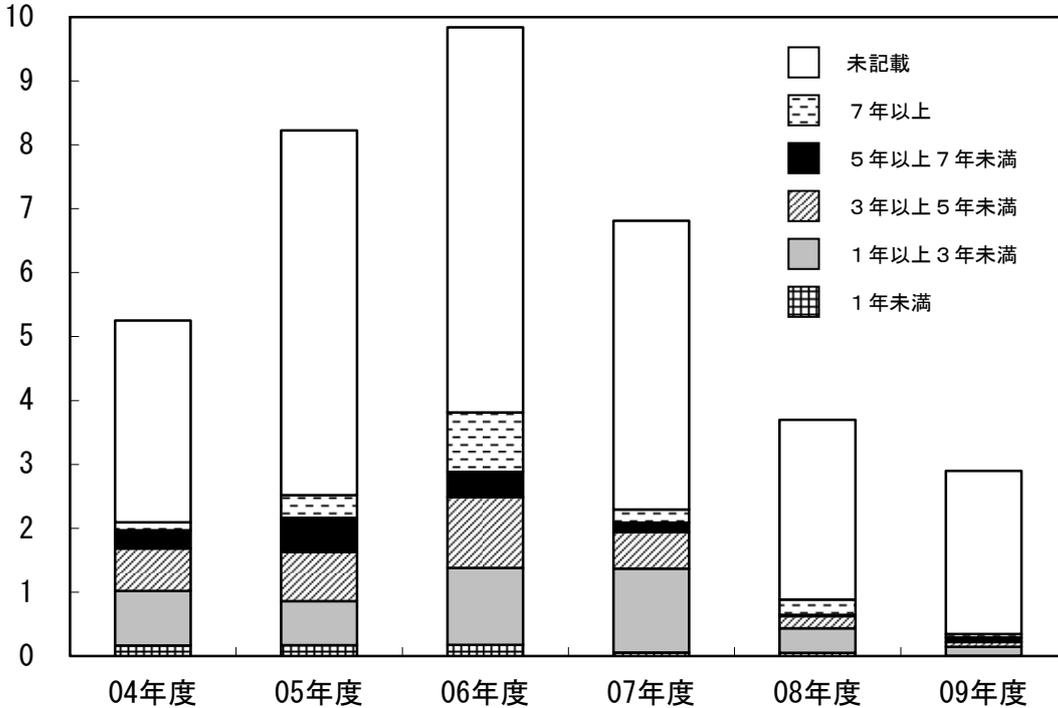
（図表13）証券化商品の「償還方法」別発行金額



5. 予定／平均年限別の発行動向

2009年度における証券化商品の発行金額（2.9兆円）を「予定／平均年限」別にみると、「未記載」が88%（2.6兆円）を占めたが、記載のある中では、「1年以上3年未満」（1,411億円）が最も多くなった（図表14）。

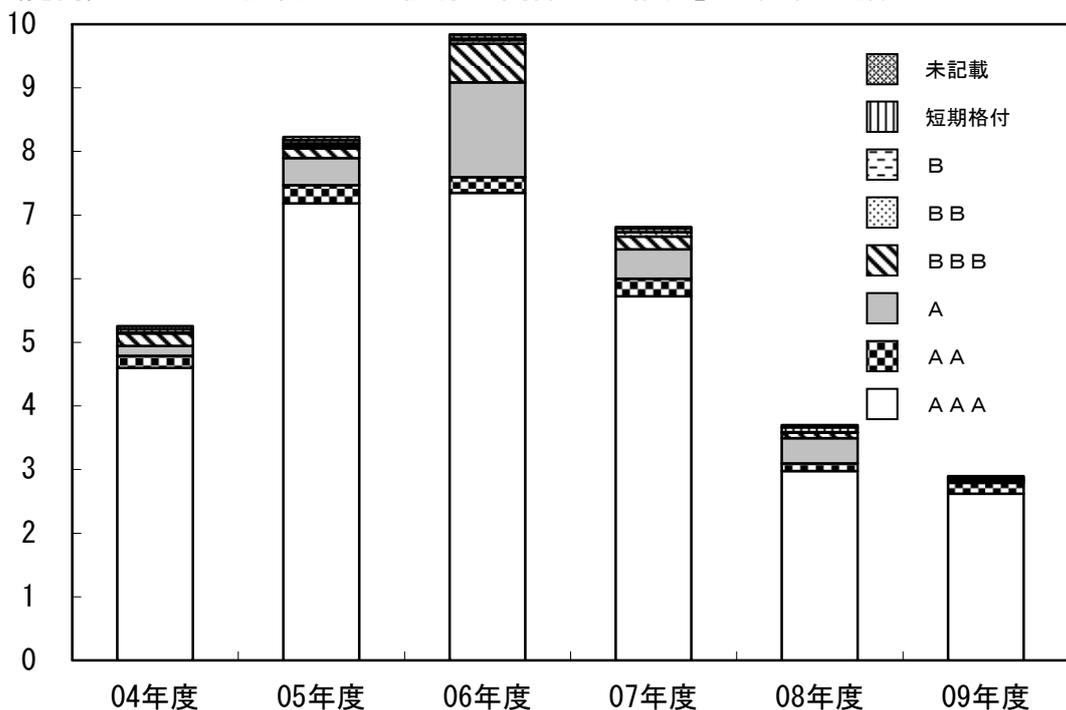
（図表14）証券化商品の「予定／平均年限」別発行金額



6. 格付別の発行動向

2009年度における証券化商品の発行金額（2.9兆円）を「格付」別にみると、「AAA」が90%（2.6兆円）を占めた（図表15）。

（図表15）証券化商品の「格付」別発行金額



以上